



この一年、学校に通う青少年も思いもよらない出来事を次々と経験しました。休校、そして卒業式の中止や縮小。今年度になってからも遠足や修学旅行の中止、分散登校、家庭での課題学習、部活動の大会中止、などなどです。そして今は入学試験や進級・卒業試験の最中です。登下校する児童生徒の様子は、一見これまでとあまり変わらないように見えます。けれどもその内面には以前には感じなかった思いを抱えていることでしょう。子供たちが大人になった時に、「あの時、頑張ったんだよ」と言えるようにお手伝いできますよう、私どもも励みたいと思います。今号では変革期の近代学校設立を特集しました。

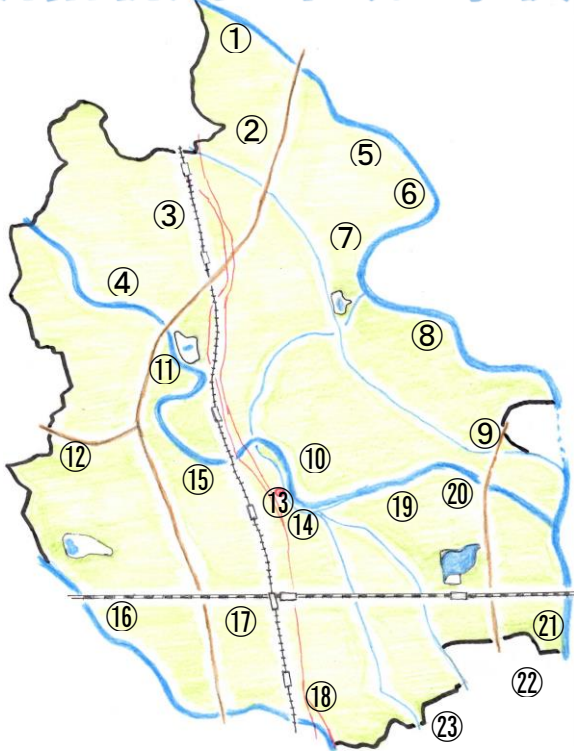
近代教育への先人の意気込み

わが国は長い歴史の中で様々なことを経験しながら現在のように発展してきました。特に幕末明治以降のそれには著しいものがありますが、その要因の一つに近代教育があると思われまます。

今の市域の小学校30校のうち、明治6年(1873年)に開校した学校が8校あります。どんな学校だったのでしょうか・・・

* 出典:「越谷市史 二」及び各校の「学校要覧」や「ホームページ」、「記念誌」など
* 開校当初の所在寺院の中には後に廃寺になって本寺等に移されたものもありました。

明治初期の市域の学校



地図中の番号	明治初期の学校名 (★は明治6年開校)	開校当初の所在地	現在の小学校 (★は明治6年創立の学校)
①	★平方学校	林西寺	
②	大泊学校	安国寺	桜井小学校
③	★袋山学校	持福院	
④	★大竹学校	太子堂	★大袋小学校
⑤	★船渡学校	龍正寺	
⑥	向畑学校	観音堂	★新方小学校
⑦	大吉学校	徳蔵寺	
⑧	★増林学校	林泉寺	
⑨	★増森学校	真正寺	★増林小学校
⑩	★小林学校	東福寺	
⑪	★荻島学校	玉泉院	★荻島小学校
⑫	★西新井学校	西教院	
⑬	★越ヶ谷学校	新石二丁目	★越ヶ谷小学校
⑭	★瓦菅根学校	照蓮院	
⑮	大沢学校	迎撰院	大沢小学校
	★啓明学校		
⑯	★越巻学校	万蔵院	★出羽小学校
⑰	★育幼学校 (七左衛門学校)	真福寺	
⑱	★蒲生学校	清蔵院	★蒲生小学校
⑲	★進文学学校	安養院	★大相模小学校
⑳	★培根学校	観音寺	
㉑	千疋学校	東養寺	
㉒	★柿木学校	東漸院	川柳小学校
㉓	★青柳学校	三蔵院	

明治6年開校の学校はその後学区改変に伴う統廃合をしました。越ヶ谷学校と大沢学校は一時両町の組合立共和学校となりましたが、その後解消されて別々の学校になりました。明治中期には“尋常小学校”、さらに“尋常高等小学校”、昭和16年からは“国民学校”となり、第二次大戦後に新しい町村立“小学校”になりました。

右の表中「現在の小学校」は、その後さらに合併や分離をしながら今の30校になりました。②、③は現在の草加市域に設立された学校ですが、後に草加町・越ヶ谷町組合立の学校となり、さらに組合立が解消され

るとそれぞれの町に川柳小学校が設立されました。こんなに多くの学校が市域に設立されていたのですね。

表中の“明治初期の学校名”を見ると、多くは地域名(町村名)ですが、その学校の理想、目指すものを表しているものもあります。例えば「啓明」は「明けの明星＝金星」を表しています。そして一校だけ人物名を冠している学校があります。「培根学校」です。

学校・教科書

国としての近代教育は明治5年(1872年)に公布された「学制」が始まりと言われていています。その頃の学校は江戸時代末期の私塾、寺子屋を下地にしながら新しいカリキュラムを試行錯誤していた様子が見えられます。近代教育が始まった頃の学年編制は次のようになっていました。

入学時の年齢	級	学 制 明治5年 (1872年)	小学校教則 明治14年 (1881年)
6歳	第8級 第7級	下等小学	小学校 初等科
7歳	第6級 第5級		
8歳	第4級 第3級		
9歳	第2級 第1級	上等小学	小学校 中等科
10歳	第8級 第7級		
11歳	第6級 第5級		
12歳	第4級 第3級		小学校 高等科
13歳	第2級 第1級		

「培根」という人

「培根」は中村重貞の号です。西袋村(現八潮市)の名主・小澤家の人でしたが、13歳で東方村(現越谷市大成町)の名主・中村家(旧東方村中村家住宅として公開)に養子として入りました。子供の頃から中国や日本の古典(歴史、文学)を修め、名主を務めるかわら、子弟の教育にも熱心でした。



「大日本國^{くにつくし}盡」(明治初期)
日本中の旧国名が書いてあり、下等小学第7級の地理と習字の教科書です。“啓明学校”と墨書があります。



「日本略史一」(明治10年)
日本の歴史を代々の天皇ごとに記してあります。上等小学第8級の教科書です。“進文学校”と朱書してあります。



上の史料は「進文学校 校則」です。前ページの表にあるように、現在の大相模小学校の母体の一つでした。年齢で“級”を定めることや登下校時刻、欠席届けなど、14か条を定めています。

欧米との交易が始まり幕藩体制が終わりを迎えて、わが国は新たな課題に向かうことになった時期、どのような国にするか模索されました。近代国家建設には教育の整備も不可欠でしたが、その発祥の時期、越谷の人々のエネルギーを感じさせ、また子供たちの声が聞こえてきそうな貴重な史料です。